

エコアクション21
環境活動レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

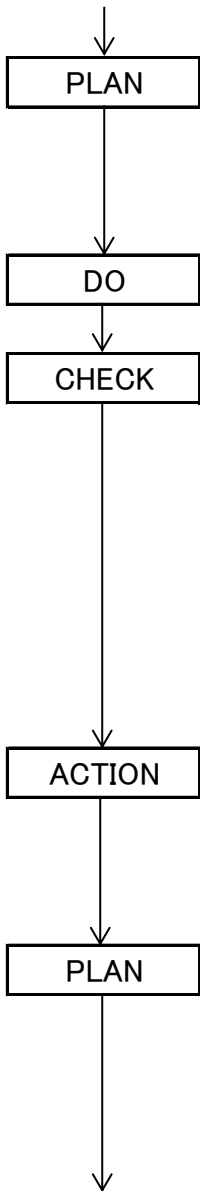
発行日 : 2016年7月23日

修正日 : 2016年8月20日

(対象期間2015年4月～2016年3月)

目 次

	1.組織の概要	3
	1)事業者名および代表者名	
	2)所在地	
	3)環境管理責任者	
	4)事業の内容	
	5)事業の規模	
	2.認証・登録の対象範囲	3
	3.環境方針	4
	4.今年度の主要な環境活動計画の内容	5
	5.今年度の環境目標およびそれに対する取り組み結果	6
	6.取り組み結果に対する評価	7
	7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	10
	8.実施・教育訓練体制についての評価	10
	9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
	10.代表者による全体評価と見直し	11
	11.次年度の活動管理について	11
	12.中期計画(2013年～2017年)について	11
	13.中期計画(2017年～2021年)について	12
	14.次年度の主要な環境活動計画の内容	13



1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社
代表取締役 八谷 順一

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者 総務部長 高坂 誠一
連絡先 電話:0567-25-2356 FAX:0567-26-3013
事務局 業務部業務係長 柴田 聡

(4)事業の内容

グラビヤ印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

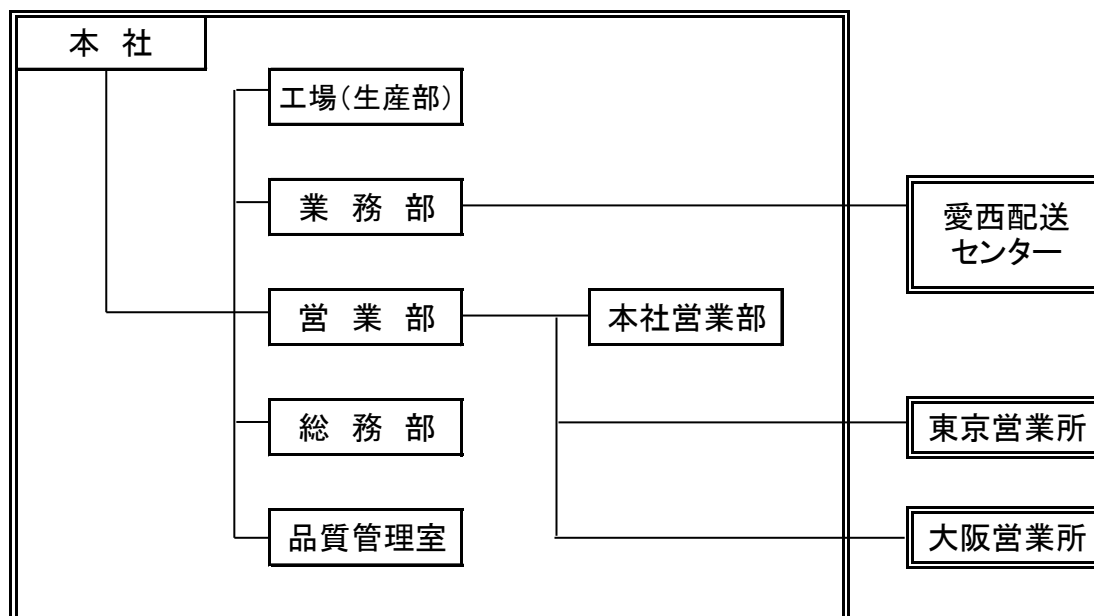
売上	11.3億円 (2015.4月～2016.3月)
従業員数	46名 (2016.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場合む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

2.認証・登録の対象範囲

事業活動 : グラビヤ印刷及び包装資材販売

(登録認証番号 0002785)

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、
東京営業所、大阪営業所



二重線に囲まれた4つの部分を対象組織とする。

環 境 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビア印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビア印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 : 2009年 9月30日

改定日 : 2016年 8月20日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 順一

4. 今年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカー貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房時22°C
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械の使用管理の充実
- E) 生産設備稼働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカーの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減

LPGの使用量

- A) 機械の使用管理の充実
- B) 生産設備稼働率の向上

2) 廃棄物排出量の削減取組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用

3) 水使用量の削減取組み

- A) 節水ステッカーの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

4) グリーン購入の取組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理

5. 今年度の環境目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2011/4～2012/3)	今年度目標値	今年度実績値 (2015/4～2016/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)		751,313	721,635	755,076	+4.6%	×
内	電気使用量 (kWh)	877,039	842,393	895,284		
	(kg-CO2換算)(※1)	414,839	398,452	423,469	+6.2%	×
訳	プロパンガス (kg)	83,282	79,992	84,108		
	(kg-CO2換算)	250,010	240,134	252,490	+5.1%	×
	ガソリン・軽油使用量 (L)	36,347	34,911	32,988		
(kg-CO2換算)		86,464	83,049	79,117	-4.7%	○
廃棄物等総排出量(t)(※2)		201	193	151	-21.8%	○
水使用量(m ³)		1,024	983	1,484	+50.9%	×
グリーン購入推進の取組		グリーン購入対象品を優先して購入することが出来た。				○
環境配慮型商品・ サービス推進の取組		ノンソルラミネートの加工高は前年比10%増かつ全体のラミネートの中での比率が71.6%から73.3%へと増加した。				○
有害化学物質使用量 削減の取組		インキの総使用量、トルエンの使用量ともに増加。ただし、トルエンの使用割合は低下しました。				×

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、中部電力の2012年の値 0.473を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべて中部電力の値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウェス・廃インキ・鉄くず・段ボール)

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
 プロパンガス使用量 本社のみ(他のサイトではガスは不使用)
 ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所
 (ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)
 水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
 廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・ガス・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、管理の対象外とします。

6 取組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO2換算値で、前年比で5%の増加となり、目標に対しても、4.6%到達することが出来ませんでした。

評価： 内訳としては、電力使用量が目標値に対して+6.2%で、ガス使用量は目標値に対して+5.1%と達成することができなかつたのに対して、ガソリン・軽油使用量は前年比-1.8%ということで、前年に引き続いて目標を達成しました。

電力・ガス

今年度は、昨年度に比べて製造実績が10%の増加となりました。

LPGガスについては、その使用先が、空調および印刷機の乾燥機ユニットがほとんどであるため、機械の稼働増がそのままダイレクトに増加に結びつき、使用量は前年比で12%の増加となりました。

それに対して、電力は昨年比で増加とはなりませんが2%の伸びにとどまりました。電力については、ガスと同じく空調および機械全体の稼働に使用されます。特にガスと違い、実際行為を行っていないアイドル中であってもコンプレッサーが回るため、生産前後の段取りの影響も受けます。その中で、今年度は昨年代表者の見直しにあったように、エコアクション活動だけではなく生産コスト削減の観点を前面にとりいれながら活動をおこなうという形でやってきました。

「時間あたりの生産実績の向上」「機械間での終業時間のばらつきの解消」

「精度・速度の高い機械の活用」など多方面から取り組みました。その成果として昨年度末から同じ生産実績で終業時間が早まるなどの効果は出ていましたが、今年度、実績に対して電力の伸びを抑えられる結果に結びついたと考えられます。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、前年比で1.8%の削減となり、目標も達成しました。

今年度は、昨年度よりさらに営業用車1台、が買い替えとなり、モデルチェンジによる燃費の向上が見られました。また、当社のルート便が、客先の変遷により距離はあるものの、同じ方面へまとまったため、コースどりをしやすくなりました。時間短縮やコスト削減の観点からも、ルート配送のやりかたも再検討し、今まで2往復で行ってたケースを出来る限り1往復ですませるようにしました。

2) 廃棄物等総排出量

結果： 廃棄物排出量については、目標値に対して-21.8%という水準で達成しました。前年比としても3.4%の減少となりました

評価： 全体量としては、大半を占めるプラスチック系のごみが減少したため、数字的には良くなりましたが、内訳として、廃油と紙くず・木くずが増えました。廃油が増えた原因としては、インキの使用量(購入量)が増えたうえで、調色による再利用がはかどらず、溶剤の再利用も前年並みに推移したことが挙げられます。

紙くずについては、今年度の新しい商材に、輸入品の原料を使用するものがあり、その入荷の際に堅牢な木の箱に入って入荷するため、その解体した木が木くずとして大量に排出されました。

これまでも、使い捨ての木パレットでの納入は控えてもらうなどして、木くずの排出削減に努めてきましたが、2トン以上の大幅な増加となりました。

3) 水使用量

結果： 水の使用量については。目標値に対して50%も多い数字となり目標未達成となりました。前年度に対しても48%の増加となってしまいました。

評価： まず、2014年5月の後半に、印刷機械(7色機)の排熱装置が故障しました。即時に修理の手配はされましたが、修理が完了するまでの間に、排熱の故障をおして機械を稼働させる措置をとった際に、水道水を排熱ユニットの位置まで引き込んでユニットに直接かけるという対応の仕方をとったため、その間の冷却水は循環せずに使い捨てとなりました。そのため5月と6月の水使用量が大幅に増加することとなりました。7月には愛西配送センターのトイレでレバーの故障による漏水が発生しました。そもそも愛西配送センターのトイレについては、できる限り使用しないという方針が出ており、現地で常駐して作業する従業員もいないため、月に数回のトイレの使用状況となっていました。そのため、最後に使用してから、次に使用するまでの間に時間が空き発見が遅れたため、大幅な水使用量の無駄を生んでしまいました。こちらでも発見後即時に修理を行い、次の期間からは平常の使用量となりました。

4) グリーン購入の取り組み

事務用品のグリーン購入の推進

今期末(2016年2月ごろ)に、業務および生産管理の基幹システムの更新が決まり、それに伴うコンピューター端末の大幅な購入計画が決まりました。その際に、必要最低限の構成とするとともに、電力効率のよい電源装置を備えたタイプを選択したことで、本体の電力消費を2割程度カットしました。ディスプレイについては、特に意識的に機種を選定はしませんでした。最新モデルということで、ここ数年の業界の技術革新で進んだ分相当には効率が良くなっているものと考えられます。

購入資材にリサイクル品を積極的に使用

今年度は大型の資材の購入はありませんでした。

ウエス・段ボール・紙管は、もとよりリサイクル率の高い商品を使用しており、今年度も引き続きそれらの商品を使用しています。

地元の業者の利用

最近、業務で必要になるものが多角化し、地元の業者で取り扱っていない備品の使用が増えました。文具類を中心として依然として地元の業者は使っていますが、その使用頻度が減っています。

5) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

昨年より、さらに無溶剤型のラミネートで対応できる材質がないかどうかの検討を進め、新たに対応できる材質を増やしました。また、従来の材質構成では無溶剤ラミネートが使用できなかった包材に対して、無溶剤型ラミネートの対応できるような材質構成への転換を提案することで無溶剤型ラミネートを推進し、ラミネート全体の中での比率を2%弱伸ばすことに成功しました。

包装資材の古紙利用の取り組み

今年度は、材質そのものに再生品の使用割合を増やすことはできませんでしたが、段ボール箱メーカーが構造を改良し、紙の厚みを薄くすることでできたタイプの製品に現行品を切り替えていくことで、紙資源の使用量を減らしました。

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

今年度のインキ購入量は、前年度比で10%の増加となり、生産高の増加の影響をそのまま受ける形となりました。その中で、トルエンを含有するインキの使用割合は低下しました。

溶剤回収機による、溶剤再利用の試みは昨年比で5%の増加となりましたが、一昨年度の水準を下回っていますので、引き続き数量目標(1日あたり2缶)を定めて実施するように指導しました。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量については、ほぼ前年並みの数字となりました。

愛西配送センターの電力負荷は、主にエレベーターと照明になります。

使用頻度の少ないものを上階、よく動くものを下階に配置してエレベーターの使用回数を減らす取り組みについて、今年度は大幅に製品のラインアップや出荷頻度に変更があり、昨年度に比べると無駄が多い配置となりました。

水使用量については、6月にトイレの故障により水が流れっぱなしになるトラブルが発生したため、大幅に増加となってしまいました。

平時の使用量としては、現在ではトイレの使用を控えるということで、手洗い場だけの使用となっており、増減の把握ができない程度の数値となっています。

・東京営業所(所属 1名)

電力消費については7%の減少となりましたが、これは移転前の拠点の使用電力が大きかった影響が4~6月まで残っているためで、残りの期間については前年10%増となりました。

水の使用量については期初の拠点移動の影響を除いてほぼ前年並でした。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 実施・教育訓練体制についての評価

新人教育の中に、エコアクション活動についての授業を取り入れました。

しかし、新人以外に対しての啓発活動としては、隔月の会議での状況報告のみにとどまり、全体が参加する特別な時間を設けることはできませんでした。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。

「消防法」について、印刷用インキの保管設備の形態について、津島市の消防本部より指摘がありましたので、不適合な部分を解消するための対策方法を関係機関と協議中です。

その他の環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』などが適用対象に該当いたします。

これらの法規に対しては、当社で遵守状況を確認いたしました結果、違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

当年度より、水銀とフロンガスにまつわるいくつかの環境関連法規が施行となりました。当社設備では水銀は扱っておりませんが、フロンガスについては空調設備の点検を定められた通り行うように体制を整備しました。

10. 代表者による全体評価と見直し

エコアクション21を始めた当初は、生産活動そのものが低調であったこともあり、事務所や工場等、生産設備外に関する運用(照明・空調の節電や節水の呼びかけ)を改善することで、数値目標を達成することができました。

ここ2~3年で生産活動が回復し、やはり生産設備そのものの稼働を効率化しなければならないということで、機械稼働の効率化に取り組んできました。

生産設備の稼働の効率化は進んでいますが、しかしそれでも数値目標にとどかない状況となりました。

今後は、生産活動の実績とほぼ比例するであろう売上高を目標に考慮し、より実情に即した計画を立てるようにします。

活動計画についても、これまでの運用面や意識づけといったソフト面だけでなく、ハード面を計画に取り入れることで、目に見える形で改善を進めていきたいと思っております。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2017年6月30日までに作成するものとする。

12. 中期計画(2013年度~2017年度まで5ヶ年)

2013年度より、新たな中期計画の基準が定められ、2011年の数値を基準として各環境負荷についてそれより毎年1%ずつの減少をさせることを目標と設定しました。

2013年目標数値 = 基準年(2011年)実績数値から 2%を引いたもの

2014年以降の目標数値 = 以降、1年ごとに 前年度目標値より1%を引いたもの

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (kg-CO2換算)	プロパンガス 使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (t)
2011年度実績値 (基準値)	751,313	◆ 414,839	250,010	86,464	1,024	201
2013年度目標値 (基準値-2%)	736,287	406,542	245,010	84,735	1,004	197
2014年度目標値 (前年目標値-1%)	728,924	402,477	242,560	83,888	994	195
2015年度目標値 (前年目標値-1%)	721,635	398,452	240,134	83,049	984	193
2016年度目標値 (前年目標値-1%)	714,419	394,467	237,733	82,218	974	191
2017年度目標値 (前年目標値-1%)	2017年度以降は新計画へ移行					

※電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は 0.473(中部電力:2012年)を使用する

◆電気使用量の基準値については、2011年度の実績値より大阪営業所の分を除いた値を使用する
(881,758kWh - 4,719kWh = 877,039kWh)
(大阪営業所が住居と兼用した建物に移動したため、事業活動による負荷を抽出して計測することが困難になったための措置)

13. 新しい中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)

前年度の見直しに従い、次の中期計画において、機械の稼働実績の変動に左右されない指標を基に計画を立案することになりました。

機械の稼働実績と強い因果関係にある「売上高」をベースとし、1億円あたりの環境負荷を数値目標に設定します。

ただし、ガソリンの使用量は営業活動・納品の影響がほとんどであり、水の使用量については生産の規模にかかわらず量が変わらないと考えられるのでそのままの数字を使用します。

電力使用量の二酸化炭素排出量への換算係数は、エナリスの2015年度の実排出係数である0.339を使用します。

水の使用量については、2015年度の数値には、通常時には起こり難い要因が含まれているため、目標数値として不適であると判断しました。そのため2014年度の数値を目標設定の基準とします。

(下表の※部分)

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (kg-CO2換算)	プロパンガス 使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2015年度実績値 売上:11.34億円 (売上1億円あたり)	755,076 (66,585)	303,501 (26,764)	252,490 (22,265)	79,117	(※2014年) ※1,077	151,180 (13,331)
2017年度目標値 売上1億円あたり	65,919	26,496	22,042	78,325	1,066	13,197
2018年度目標値 売上1億円あたり	65,253	26,229	21,819	77,534	1,055	13,064
2019年度目標値 売上1億円あたり	64,587	25,961	21,597	76,743	1,044	12,981
2020年度目標値 売上1億円あたり	63,921	25,693	21,374	75,952	1,033	12,797
2021年度目標値 売上1億円あたり	63,255	25,426	21,151	75,161	1,023	12,664

※電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は 0.339(エナリス:2015年)を使用

また、2018年の設備投資計画に、旧工場の空調機を高効率型のものに取り替えるとともに工場内換気用の排風機のファンをインバータータイプに取り替える計画を盛り込みました。この設備投資によって、試算では年間で 35,000kg-CO2 の削減が見込まれます。

14. 次年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房時22℃
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械の使用管理の充実
- E) 生産設備稼働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減

LPGの使用量

- A) 機械の使用管理の充実
- B) 生産設備稼働率の向上

2) 廃棄物排出量の削減取組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用

3) 水使用量の削減取組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

4) グリーン購入の取組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理

☆ F) フロンガス使用の適正化

☆印は新しく追加された項目です